

第 51 回 東葛しぜん 研修会

冬に楽しむ樹木ウォッチング

～名前を覚えてくれるのが自然観察会と思われぬように～

渋谷 孝子(流山市)

日 時： 2009 年 2 月 16 日 (月) 10～13 時

場 所： 柏市 柏の葉公園

参加者： 指導員 17 名

来年の 3 月に実施予定の柏の葉公園での一般観察会に向けて、同じ時期に下々見を兼ねて研修をすることになりました。観察会で「自然って素晴らしい」「自然を大切にしないで」と思ってもらうためには知識より感動が大切。それには参加者が自ら考えたり気付いたりできるようにと、クイズ形式の観察会を提案してみました。

雰囲気よく楽しい会にするためには初めが肝心と、班ごとの簡単な自己紹介、アイスブレイクを兼ねて葉痕の小人さがし(超美人発見!?)からスタート。次にクロマツとアカマツが並んでいるところで「2 本が同じマツだと思う人はグー、違うと思う人はチョキを挙げてください」とクイズを出し、ヒントとして「葉っぱの手触りを比べてみてください」と一人ひとりが実際に手で確かめるように促します。特に成人男性の参加者は遠くから眺めている人がいるから、声をかけて皆にやってもらうようにすることが大切です。

ベンチに座り、じっくりと樹木の冬越しの戦略について考えながら学ぶ時間も取りました。葉っぱを有機物生産の化学工場と考えると分かりやすく、材料は水と空気、太陽エネルギーを使って、設備投資、生産性は?と考えます。冬眠するクマと冬も活動する鹿に対比させても面白いです。歩けない樹木はきびしい季節を精一杯の工夫と知恵で生きています。

「マンサクの細長い 4 枚の花びらは小さなつぼみの中にどのように納まっていたでしょう?」の答えはルーペをもってマンサクの花に聞きました。花びら 1 枚ずつクルクル巻いてきちんと収まっていたようです。ウメとロウバイのところでは「匂いの違いを言葉で表しましょう」のお題に「ウメは甘くてかわいい匂い、ロウバイは大人の匂い」「いや、ウメのほうが大人っぽいわよ」などと盛り上がりました。ユズリハで葉が本当に子どもに譲っているかを皆で調べたら、孫には譲るが子どもにはまだ譲れないでいるようでした。日当たりの悪いところでは「まだ若い者には任せておけない」といったところでしょうか?

また、班ごとにアラカシで葉の寿命を(二度伸びをしていないと仮定して)調べたら、大体 3 年くらいでした。知識として教わるのではなく、皆で調べて答えを知るのも楽しいと思います。

参加型にするには参加者全員が実際に体験できる時間を十分にとる必要があると言いながら結局急ぎ足の研修になってしまいましたが、やる気みなぎる新人さんも多いので今後観察会を実施するときのヒントになれば良いなと思います。



クイズの答えはルーペで



マンサクの花びら収納術